中原　泉
一枚の写真
38

29年に一度の当番校

歯科大学学長会議（Ⅰ）

歯科大学学長会議は，29校の持ち回りなので，29年に１度，当番校が回ってくる。たまたまその年に，学長・歯学部長の任にあれば議長になる。したがって，当番校の議長になる確率は，宝くじ（？）より低い。

私は昭和54年（1979）に歯学部長に就いて，同会議の会員になった。幸か不幸か，その４年後に，新潟歯学部に当番校の順番が回ってきて，私は議長に当たってしまった。まだ40代はじめだったので，ガチガチに緊張した。

昭和30年に発足した同会議は，参加校の親睦交流を目的とした。もう一つは，おおむね10年毎の「歯科医学教授要綱」の改訂が役目だった。議長をうけたものの，申し合わせ程度の会則しかなく，会務の運営は手探り状態だった。副議長の教務部長加藤譲治とともに開催準備に難渋した。ふたりとも運転できないのに，「ナビのない若葉マークだなあ」とボヤキ合った。私たちは，キチンとした会則を作るべきであると痛感した。

ようやく昭和58年（1983）６月24日，新潟市の郵便貯金会館において定時会議を開催した。私は，会則の制定を提案し，当番校の経験からその必要性を説いて承認された。次年度の当番校の要望で，会則の原案は提案校が今年度内に完結させることになった。それには，年内に臨時会議を招集する必要がある…。言いだしっぺの私たちは，専門家の助言をえて，総則から雑則まで８章31条からなる規則の原案を作成した。

同年11月25日，東京の東京ガーデンパレスにおいて，第２回の学長会議を開催した。原案をみるなり，「ここまで決めるのォ」とロートル学長が茶々を入れた。逐条解説して学長会議の規準として承認され，同日付で制定された。その後，数回の小改訂を経て現在につづく会則である。

年１回の学長会議が，２回開かれたのは初めてであり，この年以降も２回目の開催はない。

（写真：昭和58年度第２回学長会議。正面奥の左に議長の中原 泉，右は副議長の加藤譲治）